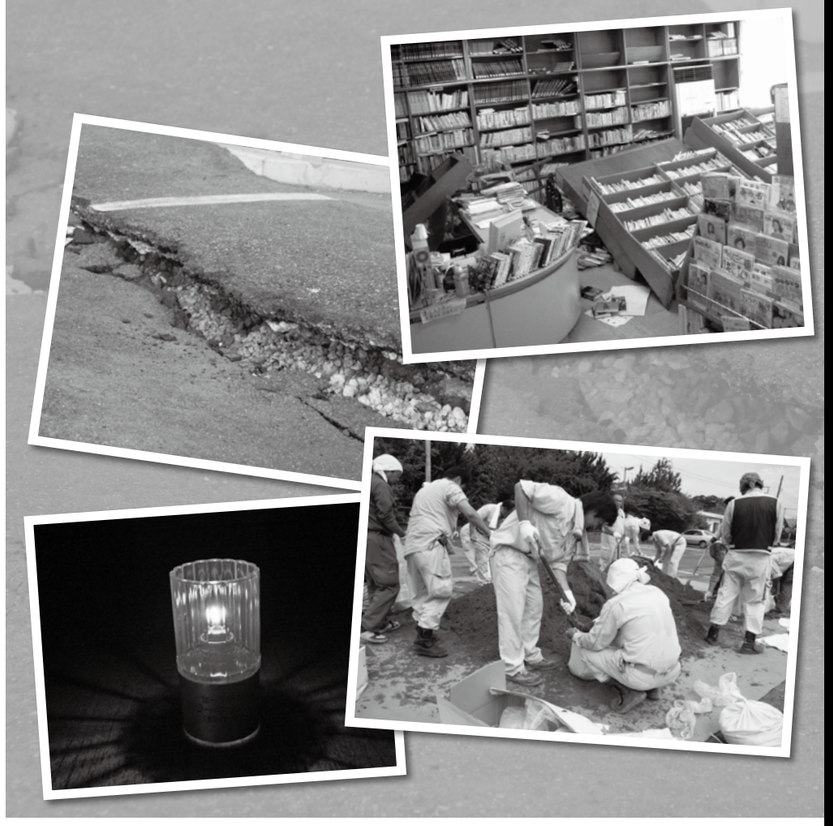
2011年秋の防災特集

地震

そのときに備えて！

今からでも遅くはない。今やらないといけない。

東日本大震災では多くの人たちが人的・物的被害を受けました。この記憶に新しい出来事に対して、わたしたちは、他人事のように感じたり、ただ怖がったりしているわけにはいきません。今後起こりうる地震に備えて、知っておくこと、やっておくことがあるはずです。



3月11日 午後2時46分

南借当・県立銚子高１年

並木 誠希（まさき）さん

地震のあった当日は、中学校の卒業式前日だったため、学校が早く終わり一人で自宅にいました。テレビを見ていると突然揺れを感じ、地鳴りがしたと思ったら、大きな横揺れが起きました。ものすごい勢いで家が揺れたので、慌てて外に飛び出しました。すると、倉庫の屋根瓦が自分のすぐ脇にたくさん落ちてきて、思わず腰が抜けてしまい、もう数センチメートルずれていたらと思うと、ぞっとしました。また、倉庫の瓦だけではなく、塀の大谷石も崩れてしまう被害がありました。

突然のことで焦りますが、地震が起きても、すぐに外に飛び出ることはせずに、揺れがおさまってから安全な場所へ避難をするべきだと感じました。

また、今回の地震で停電が続いたとき、懐中電灯など準備をしていなかったため大変困りました。今では、いざというときのために、懐中電灯などを決まった場所に備えてあります。

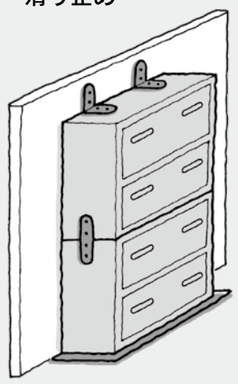
多くの方が被災された今回の震災で、たくさんの人が悲しんでいます。でも、この苦難を国民全員で乗り越えていけるよう、一人ひとりが努力することが大切だと思っています。

防ぎましょう!!

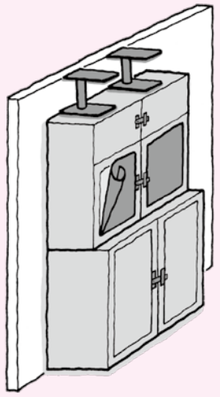
地震による家具などの転倒

建物が無事でも、家具などが転倒すると、その下敷きになってけがをしたり、室内の物が散乱することで逃げ遅れの原因となってしまうことがあります。特に、背の高い家具や重量のある家電製品は要注意です。家具などの転倒・落下防止対策を万全にして、建物内での被害を防ぎましょう。

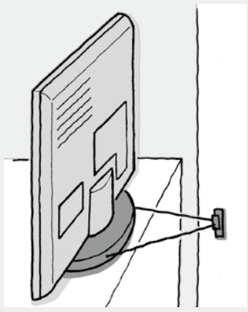
●家具をL字金具で固定
●上下に分かれている家具は金具で連結
●ゴムシートを敷いて滑り止め

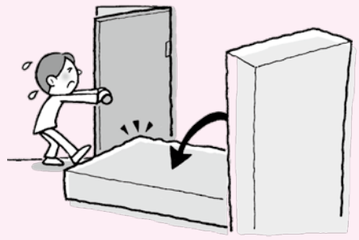


●壁に固定できない場合は突っ張り棒タイプで固定
●開き戸には留め具
●食器棚などのガラスに飛散防止フィルム

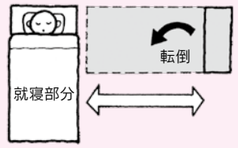


●テレビの固定
（あるメーカーの対策例）





●家具配置の工夫
●出入口付近に置かない
●就寝位置は離す



就寝位置が正面の場合は家具の高さ以上に十分な距離をとる

避難 家族みんなで避難する場所を確認しておきましょう

■必ず徒歩で避難する

■両手が使えるように荷物は背負い、ヘルメットや防災ずきんをかぶって動きやすい服装（長袖・長ズボン・底の厚い靴）で避難する

■避難場所

多古第一地区		久賀地区	
多古第一小学校	○	久賀小学校	○
多古町民牛尾運動場	○	十余三小学校跡地	
多古中学校	○	興新小学校跡地	
多古高等学校	○	久賀小学校跡地	
多古第二地区		**中地区**	
多古第二小学校	○	中村小学校	○
多古第二小学校一鍬田校舎跡地		**常磐地区**	
		常磐小学校	○

※ ○は避難所（体育館）と併設

●**避難場所とは**・・・火災の延焼や余震などによる危険が迫ったときに、地域住民や帰宅困難者などが避難することができ、避難生活を送る避難所までの避難路の安全性が確保されている場所。（小中学校、高等学校のグラウンドなど）

●**避難所とは**・・・地震などの災害により住家が全半壊、全半焼などした場合に、被災者が一定期間避難生活を送るための施設。（小中学校、高等学校の体育館など）